



〒344-0001  
埼玉県春日部市不動院野1112-1  
TEL048-760-1200  
FAX048-760-1201  
https://www.saintnoah-kasukabe.jp



1階談話室では、今年もそれぞれの思いのこもった短冊が笹を彩りました。皆さんの願い事叶うといいですね。



**ジャガイモの試食会をしました**

春先に植えたじゃが芋を収穫し調理しました。今回のメニューは冷製スープと芋もち。芋をすり潰したり形成したり…。皆で協力して作り上げました。

うまく形をつくれるかしら…

早く焼けないかなあ…

そだね

ジュー!

キレイに出来た!

～目次～

- 病院短信
  - 日常の一コマ
  - いきいき看護・介護
  - 栄養科だより
  - たなばた笹飾り
  - ジャガイモ調理&試食会
  - スタッフ紹介
- 高野 正孝  
高崎 千晶  
相澤 正樹  
穴久保 沙耶香  
デイルームにて  
作業療法室にて  
永田 美穂子

8月の予定

◇誕生日会

1病棟	8月 8日(月)
2病棟	8月 9日(火)
3病棟	8月12日(金)
各病棟デイルーム 14:00~	



実食!

調理の後は、旬の食材に舌鼓を打ちながらのお話し会。心もお腹も大満足の、楽しいひと時となりました。



スタッフ紹介

1病棟 看護師  
ながた みほこ  
永田 美穂子

星座：うお座  
血液型：O型  
趣味：バイクでツーリング



認知症の看護に携わりたいと思い、4月に入社して4ヶ月が経ちました。大変な時もありますが、皆さんに助けられ頑張っています。患者さんの笑顔を引き出せるよう、さらに頑張りたいと思います。

# 病院短信

## 『良い思い出作り』

副院長  
高野 正孝

「母はこの病院に来て幸せでした」お母さんをこの病院で看取った息子さんの言葉です。彼のお母さんは80歳代の認知症で、精神科病院から転院してきました。誤嚥性肺炎を繰り返して、その都度一般病院内科に移っては治療を受けていたのです。多動が見られ、精神科病院入院中は完全に拘束されていました。息子さんが拘束された母親を見かねて当院に連れて来たのです。「一切の拘束はしない」というのが当院の基本理念だからです。

誤嚥をするので点滴で栄養をまかない、一切口からは食べていませんでした。入院してから栄養補助食をスプーンで試してみますと、確かに気管に入ってしまった。激しくむせるならまだしも、むせないで、SAT（酸素飽和度）が下がります。嚥下機能だけでなく咳反射も弱っているのです。吸引すると、それがほとんど引けてしまいます。顔の向きをいろいろ変えてやってみてもダメで、点滴を続けざるを得ませんでした。ナースが食事介助する様子を見ながら、私はふと思いました。上半身を起こすだけではなく、身体全体を側臥位にしてみました。喉頭（ノド）を内視鏡が通過する時、先端は、中央の気管入口から左右どちらかに寄って食道に入っていくのです。つまり、側臥位にすると気管よりも食道の方に入っていくのではないかと思いついたのです。

すると、ごつくんと、むせることなく飲めたのです。ナースが喜んで飛んできました。「飲めましたよ」。思わずみんなで万歳をしました。それが分かってからというものの、半坐位、左側臥位で飲ませることにしました。と言っても、口からだけで十分な栄養を補うことはできないので、点滴と併用しました。本人も飲めると笑顔になります。嬉しいのです。こちらの言うことに、うなずくようになりました。入院の時、心配気に付き添っていたお子さん2人に、その姿を見せてあげようと思いました。動画に撮って送りしました。2人は大喜びでした。ちょうどその頃、コロナが流行りだしていたので、面会はできませんでした。そこで、笑顔が出て、わずかではあってもコミュニケーションのとれる時に、母親との良い思い出を作ってもらいたいと思い立ち、病院にお願いして、特別な面会をセッティングしました。

ところが、です。面会前夜に患者さんは脳梗塞を起こしてしまいました。昏睡状態になったのです。すぐに治療したのですが、意識は戻りませんでした。翌朝、午後の面会をくり上げ、すぐ来てもらうことにしました。2人にその病状を断腸の思いで説明しました。泣いていました。私たちも泣きました。その後、2人はお母さんに病室で面会しました。呼びかけると手を握り返してくれたと、娘さんは喜んでおられました。その3日後に亡くなられました。

「皆さんありがとうございます。母は、ここに来て患者さんと家族に良い思い出を作ったことは、私たち医療者の大切な仕事だと、私は思っています。幸せでした」

# 日常の一コマ



今回は2病棟にご入院中のセイコンさんの一コマです。セイコンさんは鹿児島県生まれの97歳。太平洋戦争末期に出兵直前で終戦となり、終戦後の生活は沈没船の引き上げや鉄スクラップ業に従事、そして27歳の時にご結婚。その後、4人のお子さん達にも恵まれ仕事も順調で、ご自分の会社（鉄スクラップ業）も立ち上げられたそうです。82歳の時に会社をご長男に譲られたものの、ご自分も働き続けたそうです。89歳の時に長年連れ添った奥様が、誤嚥性肺炎のため入院。その後の経過が芳しくなく、ご自宅に戻ったものの、直後に亡くなられたそうです。

奥さんを亡くし、ハリが無くなったせいか徐々に物忘れも始まり、96歳になった頃から急に「被害妄想的発言」や「幻覚（幻視、幻聴）」などが出始め、その後も薬を拒む、非常に怒りっぽくなり暴言を吐く、介護拒否はもちろん放尿などまで見られ、とても在宅介護は無理という事で、当院に相談に来られて入院となりました。入院当時は気が高ぶっているせいかいつも興奮気味で「喉が渴いた」というのでお茶を用意すると「娘の持ってきたお茶じゃないと飲まない！」と頑なに拒否。その興奮を少しでも和らげようと頓用薬（一時的に使用する薬）も処方しましたがこれも拒否。薬に限らず口に入ったものはすべて吐き出してしまいう「被毒妄想」もあり、スタッフ達が触ったものは全て毒だ、と拒否し続けました。又、車椅子にも慣れていないようで、急に立ち上がったたりテーブルを伝って歩こうとしたりで、とても転倒する危険性が高く、スタッフはずっと付き添い、いつにも増しての「見守り」を徹底してきました。このまま拒食、拒薬が続くとセイコンさんの命の危険もあり得ると師長も判断、主治医及び精神科医とも相談の上、ご家族の了解を得た上で、微量の向精神薬（精神を落ち着かせる薬）を注射することにしました。

この注射薬の効果とスタッフ達の穏やかな根気のよい対応も相まって、その後はセイコンさんも少しずつ穏やかに拒食、拒薬も減り始めました。入院時には吐き出していた薬も今では声をかけると口を開けて飲んでくれるようになり、食事も自力でしっかりと食べてくれるようになりました。最近、日中ホールでスタッフと目が合うと、手招きして自分の近くまで呼び「夜、豚肉食べに行くか！」とデート？のお誘いがきます。「牛肉じゃないの？」と問うと「俺は豚肉が好きなんだ。豚がいいぞ」と答えてくれます。そんなセイコンさんとの会話は、私たちスタッフもとても癒されます。いつまでもそのセイコンさんらしさを大切に、いつもの笑顔で楽しく過ごしてくれることを、スタッフ一同心より願っています。



2病棟 看護師 高崎 千晶

## 栄養科 だより

管理栄養士 穴久保 沙耶香



皆さんがよく見かける栄養成分表示は、独自にその製品で成分分析を行った値もしくは食品成分表から計算された値です。食品成分表は5年ごとに改定されてきましたが、一昨年公表された2020年度版(八訂)は大改訂ともいわれる内容でした。測定方法が変わり、より確からしい栄養価に変わったのです。それに伴い、平均してエネルギー量(カロリー)は8%ほど以前より低くなりました。海藻やきのこなど以前より増えた食材もあります。一般食品も順次、2020年度版での栄養価に変更されていくと思います。よく召し上がられる食品のカロリーが低くなったと、気づかれた方もいらっしゃるかもしれませんが、実際には召し上がっているものは同じです。ある日いきなりご飯のカロリーが低くなったわけではないのです。外食時にメニュー表のカロリー表示を気にされる方も多いと思いますが、「あら、前よりもカロリーが低くなっているわ！もう1つ食べちゃいましょう♪」なんて続けていると…。お気を付けください🍴



## いきいき看護・介護

### 『熱中症にならないように』

3病棟 看護師

相澤 正樹



「今年の夏は暑い」と毎年のように報道されていますが、実際、異常なくらい暑い日が続いています。コロナ対策のためにマスクの着用が当たり前の世の中、高温多湿といった環境でのマスク着用は身の危険を感じるほどです。マスク着用で体内の熱がこもりがちになり、ノドの渇きを感じにくくなるため、気付かぬうちに脱水症を引き起こし、熱中症になってしまう恐れがありますので注意が必要です。人混み以外ではマスクを外し、メリハリのあるマスクの取り扱いをして、熱中症対策にしっかりと取り組ましましょう。

### ◆予防のポイント

- ①換気を行いつつエアコン等を使用する
- ②ノドが渇いていなくても時間を決めて水分補給をする
- ③マスクをしているのでわかりにくい（マスクをしていないのと睡眠をとる）
- ④適度な運動をする

